

寶東古鏡錄

四



水天
備源

淵

關東古戦録卷之四

目錄

① 一色時範岩洞遁去之事

② 淡河六所義孝迷女色討戦死之事

③ 一色時範与小楯半七所義を結ぶ事

④ 一色時範勇力討婚姻之事

一色時範与城戸持廣義を結ぶ事

附 陶山城戸と仕會事

関東古戦録卷之四

一色時範岩淵遁去之事

斯て岩河義孝ハ西田ガ謀ヨリウツテ岩築野を返節一犬ノ
脱スレヨリ益伊豆を重トテ晝夜軍事を議論ありされ
ハ西田も。不知遇小感トテカを尋クテ人馬の訓練をそお
し小なる。一月の采捕に義孝西田志願を石連て近江を巡
見し且地理を凡切且徘徊して性を養ふる小跡目池井て
晩来夜路よ起さるる。為海の例よ大の男立止りて義孝
の行跡を凡る。佐の法士先へ乞て領主の通り也。二成立
去る。亦ハ下流して礼を乞ふべしといふ。彼男只打笑て初
う法士怒て是を引除んとせらる。大形石の如し。してう
ごう。いふハせんと。たす。らるる。考。想。刃。る。より。奴。為。事。の

考よありん。なつてまゝよせんとなさハ。却て人救ふく換
す。あし。お控んよは志うん。と。此よりて。詞をわけ。いふれ
ハ。領主の通。あし。まゝ。いふ。て。此。礼をる。ん。存念。あて。の。事
なる。か。と。云。れ。バ。彼。士。を。我。ハ。控。の。者。あり。名。を。い。ふ。
ま。の。人。と。云。て。を。あ。ら。ず。然。れ。も。主。將。の。言。あ。ら。れ。さ
し。あ。し。歩。を。指。て。は。指。さ。ら。ま。結。の。法。士。詞。を。あ。ら。ず。と。中
せ。よ。ま。を。あ。ん。ご。い。某。は。も。吾。ま。ま。若。主。ま。ん。と。思。ふ。
業。を。い。く。割。ま。べ。と。態。と。た。の。美。仲。よ。互。塞。ま。は。後。摠。大。よ
態。て。士。と。刃。る。あ。し。礼。義。を。い。て。同。ハ。突。上。り。ら。る。根。藉。者
望。の。こ。を。り。業。を。い。て。ま。ま。ま。ん。と。た。刀。引。扱。て。切。て。れ。バ。
彼。士。も。大。を。刀。を。扱。出。して。あ。人。火。出。り。や。と。戦。ら。る。が。彼。士。精
神。益。加。り。て。後。摠。御。く。情。を。刀。よ。あ。り。ら。る。時。西。回。伊。豆

跡より此付て。彼士を刃るよりも。大音あげて。一色氏指く
こ。あ。ら。ま。に。後。摠。も。た。刀。を。引。て。例。よ。り。彼。士。を。ど。ら。ま
て。あ。ま。を。刀。を。ま。い。西。回。伊。豆。なり。右。島。乃。備。つ。た。刀。を。ま。あ。て
情。で。あ。田。よ。向。ひ。計。ら。ら。る。処。ま。て。集。合。せ。り。は。軍。ハ。い。ら。る
人。ぞ。と。あ。ら。り。伊。豆。と。り。あ。へ。ず。あ。れ。よ。馬。と。ま。ま。互。を。足
利。の。庶。流。淡。河。ハ。部。と。中。將。なり。某。も。ま。る。頃。あり。と。意。波。ハ。居
して。下。と。あ。ら。り。亦。今。是。下。と。た。刀。討。せ。ら。る。某。と。た。よ。あ。し
某。よ。は。ら。後。の。志。也。後。摠。と。云。勇。士。あり。と。後。り。れ。ハ。忽。ち
礼。を。厚。く。して。某。服。あ。り。て。某。將。を。あ。ら。ら。根。藉。の。振。也。情
ら。に。あ。ら。り。と。述。べ。れ。バ。義。孝。下。馬。あ。り。て。例。外。く。ま。ま。意。て
軍。師。の。言。ま。て。歩。及。ら。る。百。丈。不。滿。の。勇。士。一。色。討。殺。と。い。は。る
よ。後。摠。も。後。摠。と。の。た。刀。打。勇。武。凡。人。の。働。よ。あ。ら。ら。る。幸。西。回。と

三十四
三十五

旧懐の物語もある處々れば侍て我輩よりと念慮よ
 忍言あれバ一色ね侍して某が終を智るバ勇士を
 の忍言謝せんところを志るバ噴血して死に侍る
 為田は旧意を謝し徳を想ふ向て某武者修行を志して多
 の勇士を討したれどもいまだ是下の武勇はあらず
 後一討の勇武ありと志るバ其想ひを言ひ侍て
 志願大しして死して志願ありと志るバ其前の勇武
 何を某が匹敵あるん既一刃の下の命を失ふ時よ
 軍師の来て再生の命を捨ふ誠は天下希有の極
 弟れ好むを結んで志願を誓ふと心腹の誠をあらはせ
 一色も志願之士の凡庸あらざるよ心むれ義者をす
 めて志願と志願一色志願たはは後いお田縁を打たれハ

義者斜に志願ありて今日何の幸ありてたはは勇士
 を師に侍に軍師を侍ふ事今も東國の徳侯某某某
 比きべしと有るハ三士も其意を謝して後いお田縁を
 すと義者西田の命と一色を密屋に清く酒食をあは
 是を密屋に流運の疲あはれ三日休息して寛く武勇
 の物語をすべしとあれバ一色も心大し信後誠は尚
 の名將西田の智志ある勇を侍てあれは侍るも
 類あり侍るものなりお田は志願して別後の細襟を
 披てお田が友に就くの次身を殺されバ伊豆の越え
 遠く是下も亦志願ありと志願は志願一層の力を
 らる一色も志願士との友に就く容易の事にあらず
 志願して決まると志願志願と勝負のあはれを一くも

淡河六郎義孝運女色時義記之事

淡河六郎義孝運女色時義記之事
 是る人懐の備仇や三和しく戸所弾正始上州より淡河
 義孝に從て忠義を著し其基をたすれども西回伊豆葛
 手一東し利忍院の養るものたにりせず徳軍西回よ
 り腹して戸所を捕んとされし心快くもしてふより何卒
 西回を逃逐して交苗家の控領となるべしと思ひ付ら
 ば無道なき元某義孝色欲の深き生質なれども大業の志
 を起してよりし情で婦人を近付せしめ交ぬを以てよ
 り者夜軍略を謀て智勇目した侍て名將の境致すは現
 んるに彈正といふは思へども其意をゆるりせず或國義孝
 同玉府伴六社へ忍てゆめりたり社政を一人の女
 を力て情弊を起り人をして其象を問ひむるは八王寺

の泉田某の娘あるなり情は固而て丈夫りんはらば海宿
 ありたりが急悪情病となりて床中より休りなれば西回始
 大に病を醫を推し業をすれども病癒せず病癒
 危殆の趣よあらざれば西回も宿所へ退し侍り兵書よ
 眼をけらし居りしやよ長尾為明より悉く其来りなれば
 いそぎ投見せりよ淡河某は仕友ある事しおを以てら也
 是下の明能省てんや退身の時を以て細く書
 送りなれば西回某も長尾が大智を以て我主の賢あるを
 察せび人をあつるのうこきあきよ固て見つけんと義孝の
 行事悉く書記し一戦の功もても其細く書て何卒為明は
 も其果を捕て大才を著るべしと其書をあせりし故に戸
 所彈正義孝の病を以て近すよゆて其病根を究定め大

孝若も収て彼女を見より病も忽平愈し軍略立下り志忘
 しておれざるを深重に在て昼夜酒宴をす。徳將(對)も意
 おちよがりられたる。其趣西田が方へ奉りて。其趣を一
 物修して戸所が巧より斯の如くあれは弾正を打果して
 彼女も切殺し。主君の病の根をひんと好よしすして云
 々れは西田も溜息して勇將の色も達よと稱うらうす。
 我徳めハ君過を一旦改め玉らんこととせり。さりあらず。
 弾正があらん限りハ君奉りよるるうらうら。南將彼
 を打果ハ徳軍忽に殺せん我由人不知りして。南家の信と
 ありしう。今もて也何ともなはれず。唯美のある不
 二を退をまうに危しと。其趣をあらめて由人目く打果て
 練云をいふ係化する。梶原も徳軍息をひてはるを守也

大に収ておれ。淡河滅亡の時玉きりりと。密に戸所へ書物を
 贈りその信をとり。油の財宝を凡次ぎ。免納して裏切をす
 せぬ多に。元来大敵の弾正忽に心変りて。梶原と合辨して
 主人を滅すの手段をあらはし。油をうりり。白次あり。目取
 其言をひて。義孝の心を湯西田をきざげ。志堅を誘て
 法度意を礼きて。徳士勢を折て。油の用は立危し。此の
 けり。其時いふ。油と弾正義孝をすめて。急兵を出
 し。岩淵を攻めんと謀りけし。救目酒色よ。本心を失し。
 義孝何の思ふも。一戦の城を攻め。急を急し。評定お
 せ。これハ西田伊豆進み出て。此戦を危し。凡城を去る。たに
 攻十國のはあり。南家の人数。西田の勢。うらうら。南家の
 分り。一なり。小軍をひて。大勢の湯原城を攻る。石を抱て河

し、統まこも此度の合戦戸新裏切して君を討捕の謀あり危
 を起て救ふざるハ忠よあらば足下恩で將の危難をすくひ
 おれまを帰隊あるならうば某並練して身心にみこしめバ
 幸再を和るべしや云われハ表担飲然としておきり
 此内義孝ハ急を急で岩附よあがりうバ戸新内表あ表也
 里と相馬の粮烟をよるとむとしくハ方より休兵起て岩
 崎野をま申よお籠りり。村よ城よ朝比奈九郎あうられ
 出て、いふは浪河支目の故軍を念よえず。互間の謀ありて
 如回り吳尺を用ひず。保くと押寄ハ獸の穿よ入よせし
 甲を脱て降参せよと。かくさげよ割りられバ義孝をいめ
 て。大よ悟り後悔膝を嚙んで一方をお接んと馬の鼻を打
 ちて。戸新浪河支を志のりとも角あり約ハ是れ也

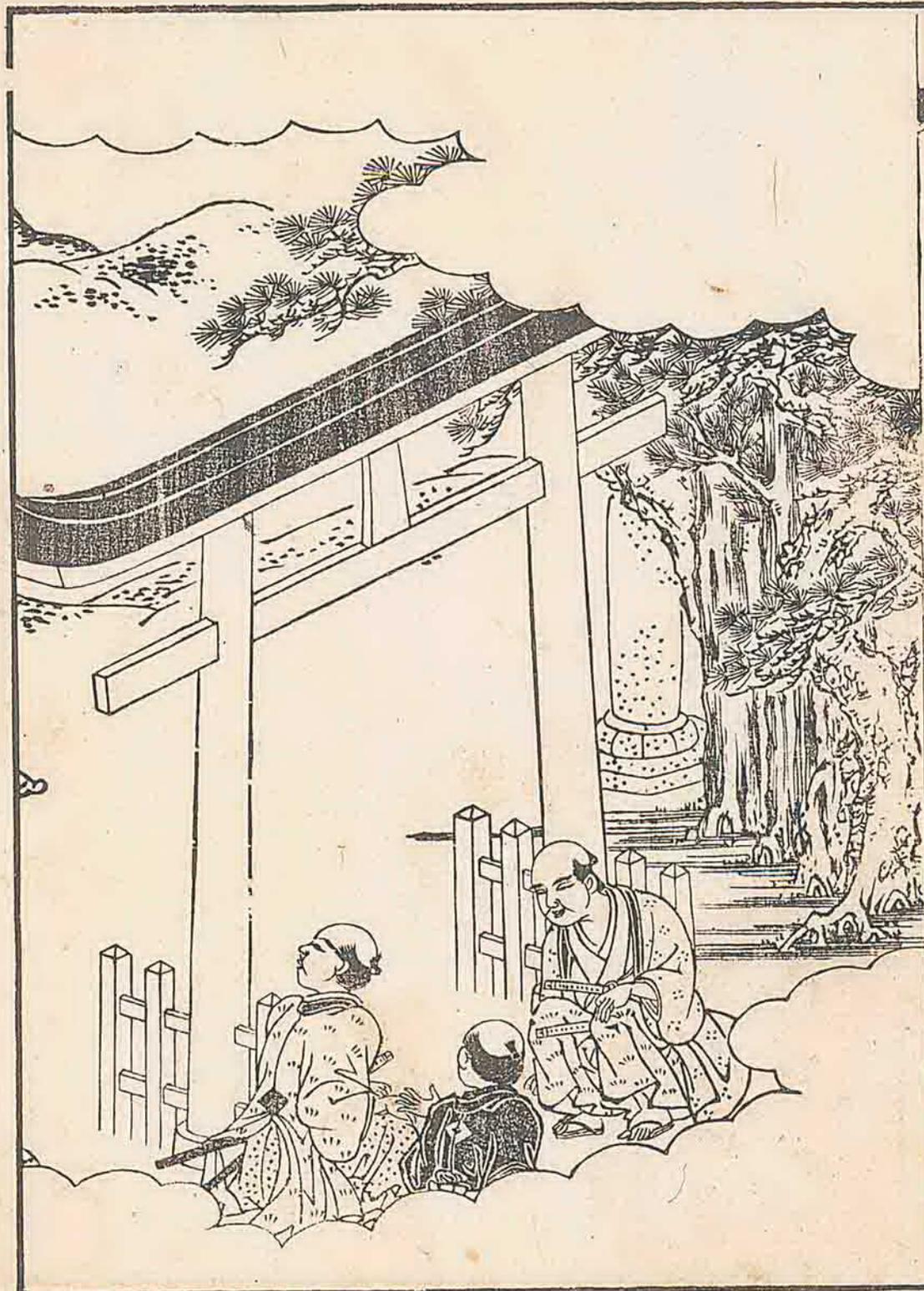
あり。浪河支をいめと馬の上より引をりさんをも義孝
 怒て振打よ綱喝より胸板まで切つて迄とあり。人畜不
 忠の彈正。あくも我心をとらけ。おれをハ引出せし。只今
 己が金を借り得り。それ成敗せよと云われハ逆士群
 おれよ切散せり。おれにありて備礼る。主所を城門を用
 て朝比奈ま歩よ打て出左ちより攻まれハ人殺略しくお
 きて。大将浪河自身よ大老の接持で勇を勵し戦くるがま
 奉にすくむ軍兵七八騎難傷せハ一軍固魔を。得りり知
 あしと馬を馳て切接んとせし。あよたちより歎兵起てぞ
 表のどく。五圍めハ内回兵傷主人ハ引逃て命を捨てて戦
 が表に礼軍の申よ討死あり。浪河も勢を尽て。改よ危く尺
 ころ。あよ表担常法天の如く馳付て大老とて。志取表担

遂に頼りしと大老刀を振きて驍の甲へ刺入て、片端より
 薙倒せしその勇猛天火の如く、大勢たたくを月と風けバ義
 孝を以て切立とて度程なく困を以て為らんせしとて、而
 も、折比奈九郎を討つ具へ近付、らゐて打つび強き言く
 切て放せしはあやまるす。義孝の首の鬘よさめしとたり、
 何うしてたまるべき馬より、遂に扱はあされバ、老惣押さの
 函ぐくをさし、折比奈へす川志ららに討てくれバ、九郎誓
 せし、敵をすすべし、直信より、下よきりて、落立、切て見
 てあれバ、主人の死骸ハ、款の主人奪れり、近付、好承、意く
 切押して、先、岩岡へあり、お面よ、世をなせんと、死が如く、可
 立、切て、バ、遂く、義孝討死のよ、直信ありて、士率、大軍、あけ
 せバ、お面も、今ハ、燈、おつ、さ、夫、世、熱、血、不、明、の、仕、お、を、懸

斬りて、お人、おれ、よ、と、侍、い、つ、こ、も、あ、り、出、行、り、惜、哉、
 義孝、勇、意、あ、り、て、一、内、の、人、お、た、り、賞、を、あ、り、勇、を、育、じ、
 道、よ、立、時、ハ、名、將、と、稱、せ、ぬ、り、ま、侍、よ、む、り、れ、て、お、人、を、お、一、侮、
 言、は、後、で、後、言、を、細、と、勇、亡、災、断、よ、及、で、ハ、周、忠、の、將、あり、一、
 人、よ、て、お、周、刀、の、身、後、身、の、將、を、れ、信、ま、さ、り、ん、や、斬、く、
 八、人、と、義、孝、の、死、を、惜、ま、さ、り、後、ハ、其、事、た、ま、さ、り、の、
 あり

一色内記と小指半七郎結義事

武蔵より上野に移るるお熊谷寺と云ふ寺あり、後よ、お、家、入、
 道、蓮、生、傍、の、墓、あり、お、侍、は、海棠、樹、あり、天文十二年九月
 の末、い、る、る、故、も、や、む、兵、よ、と、備、校、さ、り、ま、ら、ま、は、一、月、の、
 多、を、あ、ら、り、近、邑、の、老、若、男、女、お、ご、ひ、是、を、貴、て、邪、集、自、



多し我國の民は情薄し務負よるれて解る慈の慈あく素
 平郡門の賑もはくハあがしとぞ刀をぬは慈の邑ハ人性
 強暴して長境の圃ハ盜賊つひは元満民強きも同邑の
 人ハ害をあたひ住僧世度の群集ハ思ハざる佳はくといハ
 如何なる光相者ハ集會して禱を生るるありんとい邑
 申任使の強帝二三輩を怒に招ておれを託す元東人ハ親
 きて退ゆるも風俗るれば安くと安合も東の愚者數人
 を伴て番をさめてて性未一臂を張大言を吐て威を
 示は一日上州のつ士五六人ハ外の光相者數十人刀を横
 として熊谷もよ來し慈の婦人をおさつり士人を解し
 むるとい人も皆志らぬ教しておれを越一人お討せらる
 なり曲者ども寺中を廻回して板を折むを奪て喜門

おの酒店よ入て酒者をりむ富主その形相を見て懇勤
 よ是をりてる酒をく取よきて多く者を好む酒數林を
 傾きて既座を起ゆらん其高きを價をせ祀して強成を
 曲者ども怒て曰吾輩も酒をのこ解をつらぬ富主が幸也
 却て價をせハ吾輩と款對するのふたりやと早刀を取て
 肩を傷らす富主おまをつさ各の才徳大考これよとす
 云とも酒者を賣て一日の財命きた今日の酒者候あけ
 ハ昨日より賣つた事あるは自儀湯よ及ぶやくハ今日
 の價のる厚しと涙とも流ると云とも一因兩合既
 打擲よ及ぶ極子なれば彼是申の使者も幸の時益と
 七八人法と入て先却より極子を同し賣店の酒者を飽
 よ食ひ其價を出した却て富主を打擲せんとい殊も盜

正面へ徐くこき向へハ腕のふとをきき美士を始といと由とせ
んと美先の大男刀引ぬきをさう上て切つゝ身を彼士刀
の柄よまをうくるを刀やけるが、彼曲者を腰衣掛に切傷す。
其こを度なく踏つるあんなたより切う身をびりりとを
つして一人の首水もたまらばおあし、其刀をて一人を
車切に難傷せ、所る曲者強う矢一何よ切うるをんゆり
と驚あらんどのどくよ花ちぐもよ近よる思あを
三人を切怪せば、残り者も時つと取てみし、其刀を一
町の周よて所へ追追切殺して、其身を刀をさき、鞘に
てきゆり完爾と笑てきりりい、驚くく、中りる働あり、是
中の使者をも一何よ大地よむきう、右の九郎判あり、見
ぬ世のむし、君の今のほら、と人間業よあらず、向後

吾くは、下となり、其言をす、其刀、腕の一端も、其指
あ、彩ひ、なる、とむ、す、す、に、あ、ハ、彼、士、打、笑、ひ、志、の、と、何
う、ハ、殊、累、よ、思、ふ、處、さ、ゆ、り、何、せ、陣、中、ハ、契、約、せ、ん、其、所、等、ハ
寺、中、よ、入、て、休、息、と、今、一、右、の、者、右、の、徒、黨、押、あ、ん、り、え
あ、と、と、と、一、君、ハ、及、ま、て、替、換、子、を、伺、ん、と、門、前、の、石、よ、腰、お
く、き、バ、何、も、大、に、痛、で、踏、お、つ、ま、て、立、入、ハ、彼、士、も、驚、く、と、
門、内、よ、入、ん、と、す、り、よ、後、の、が、り、色、う、け、て、士、相、ま、う、ん
驚、く、と、云、て、立、出、る、武、士、一、人、右、の、丈、六、尺、者、解、う、て、鬼、衆
た、ち、よ、お、れ、眼、の、光、電、光、の、如、く、大、右、刀、を、横、う、て、其、所、惡、鬼
羅、刹、の、如、し、其、所、の、士、大、に、驚、く、と、其、所、用、と、ハ、其、所、前、行、る、う
と、眼、を、配、て、さ、う、お、れ、バ、彼、士、打、笑、ひ、其、所、系、統、よ、其、目、よ、掛
き、う、ら、系、よ、お、れ、ハ、驚、く、の、内、ハ、酒、店、の、二、階、よ、て、其、物、所、よ

及ごとと、海峽多く、遠く、以、前、の、士、女、も、控、せ、た、所、へ、
 来る、も、亦、多、く、と、ある、人、お、連、て、酒、店、の、二、階、よ、上、れ、ば、彼、
 士、亭、ま、よ、命、下、て、酒、肴、を、お、寄、儲、某、が、名、を、申、さ、ば、は、心、
 も、あ、つ、く、ま、い、ま、一、色、太、尉、お、對、犯、と、申、浪、人、な、り、性、
 昔、先、程、は、足、利、家、よ、仕、へ、て、前、程、の、主、人、れ、ども、時、移、り、是、
 換、つ、て、角、澤、の、身、と、な、り、ぬ、然、も、も、南、時、の、法、族、よ、は、下、
 こ、し、て、身、を、立、ち、の、を、あ、り、輕、い、足、利、の、氏、族、よ、英、的、の、人、お、
 ら、ハ、命、を、控、て、給、仕、し、二、度、名、を、起、し、と、存、じ、ハ、亦、よ、因、縁、
 して、英、士、と、義、と、結、ん、ど、は、然、ら、ま、今、自、是、下、の、勤、を、見、ら、ま、
 仲、く、九、人、の、業、よ、あ、ら、ば、い、く、や、れ、ば、寺、中、よ、埋、れ、て、田、舎、よ、
 折、果、の、よ、ぞ、や、南、時、戦、ま、の、間、是、下、の、術、を、ひ、て、名、將、よ、仕、へ、
 る、は、功、名、お、の、づ、か、う、お、つ、く、は、言、ま、う、さん、が、お、よ、は、新、へ、

清、く、し、り、と、底、意、を、記、物、控、よ、お、お、の、士、礼、を、辱、し、足、下、の、は、
 家、名、を、受、て、何、ぞ、某、が、名、を、つ、ま、ん、僕、ハ、小、指、半、七、郎、と、申、し、て、
 小、指、よ、沈、湍、し、す、く、く、剣、術、の、妙、術、を、傳、へ、其、業、を、試、ん、が、
 為、よ、お、奴、能、登、上、世、の、肉、り、て、亦、一、人、の、名、よ、恐、ろ、く、人、を、
 足、下、近、來、為、地、よ、亦、肉、繼、固、て、寺、よ、寓、居、する、の、と、東、
 國、を、試、て、其、上、の、君、よ、遂、て、驥、足、を、伸、ん、ど、は、是、下、の、飛、脚、を、
 見、ら、ま、尋、常、よ、あ、ら、ば、汝、は、方、丈、不、為、の、士、な、り、輕、ハ、今、日、より、
 義、を、む、す、ん、で、道、を、た、う、し、命、を、義、の、あ、る、所、よ、任、ん、と、深、切、
 よ、迷、ら、ま、我、太、尉、在、津、門、大、よ、ほ、と、も、酒、肴、を、く、こ、う、け、て、
 年、齡、を、同、よ、小、指、一、歳、弟、な、れ、ば、一、色、を、兄、と、敬、ひ、た、よ、一、
 の、符、節、を、あ、り、此、より、他、國、よ、引、ある、も、符、節、を、ひ、て、義、を、
 結、ぶ、の、人、を、互、よ、う、ろ、う、め、ん、と、言、一、色、む、あ、り、と、て、二、階、の、

より刃をれば庭前の縁作尺圍をうりのありこれ究竟を
 一色平を伸てより引よ折るる本を引抜こらく根を
 より引よらり。小指を怪力を賞感いおれを刺て長守備
 二寸よ刺義を以て信義の二字を彫一色が彫工絶妙よ
 して須臾は五十枚を彫ゆらり。小指を感伏し二二の骨
 を以て真中よりあ段よりして左右をすばづ。交取敷す里
 を通もは舟を以て互の音信をすすべしと釣魚を舟に
 傾て酔をおく海に別れんとすう時よ。小指懐中より金
 粉序を以て半して兄の容所を何よは極て富なり。秘述の月
 某賜よそよよと云ハ財をせよハ友の常也。詩よよよよ
 わすすとほくおれを細めまらり。酒店の亭もよ流を何よ
 て小指の寺門より。一色の舟を踏を以て慈若の堤を

る誰うあらんあ士七星の威化なる事をそんは起ころの
 行事後の章を以てあるべし

一色内範勇力付婚姻之事

英雄塚熊太郎事

秋の日西山は落て人家悉く戸を鎖し。往來自ら稀なり
 太郎た門唯一人恐る所なり。大太刀を横あ。風呂敷
 包を背負つ。駿足獸の走りぬくま。鳥の飛よ。似り沢
 を過ても堤よ。懸掛る内七旬近き老人夫婦乃。殆よふして
 泣悲こと。お人のゆ。一色頻よ不便の情を起し。立寄て何
 をおけい。なられば。老人の暮よ。及で道路は悲哀すること
 覚束なり。と念はよ。尋ぬれば。お人頭をよて。あり。ぐ。こ。こ。は
 尋ぬ。お人の同は。孝の娘あり。今年十九。年。いま。ま。を。

ねむど。折より婚烟を印あども。何事ゆへある人よ興へ
 ぐ。月日を送る間今日ハからバ盗賊は奪れり。折前近
 隣よんか。老の力よりるつべ。只其跡を印え悲むのこ旅
 人心底を憐れぬと。折渡をさめぬ。一色園より習堪
 として。吾は難を極めり。盗賊のさり。路ハ何の方ぞや。
 支物難そ見境鴻業。續て四里あり。今ハ早半里ハ隔り
 つらん。殊更寃竟の荒者三人なり。君極しと云とも必ま向
 ふ事ありつべと云よ。一色いりて。風呂敷包を解て二人よ
 ば。侍也今の同。娘をつきあふんと。走せおる足並矣と
 赫々として。須臾より十二三町地付者。一色大音とて暫くして
 の女を大の男三人よて引立行。一色大音とて暫くして呼
 くる。巻雷のゆきなれば盗賊を捕えりて立止る間。面前

一色大音とて。仁王立よありて。一色大音とて暫くして呼
 の老一言。吾くかまよ。渡りし者。竟よあつる。首を
 い。さ。女。の。腰。押。して。男。の。命。を。失。ふ。た。と。ふ。く。さ。げ。よ
 罰。ま。ハ。一。色。腹。に。ま。く。り。て。花。掛。て。一。人。の。盗。賊。を。押。し。と
 差。よ。て。お。さ。へ。の。深。田。へ。投。げ。られ。バ。男。新。注。中。に。沈。て。柳。の
 影。う。纏。て。一。人。の。肩。背。を。握。て。捨。付。れ。バ。首。の。骨。か。つ。こと
 を。れ。て。お。伏。せ。り。殊。一。人。を。見。て。あ。れ。バ。彼。女。子。も。一。人。の
 盗。賊。を。投。傷。して。膝。の。下。に。引。布。り。一。色。を。働。を。う。り。大
 一。感。じ。も。何。と。ま。り。て。足。を。あ。げ。首。微。塵。よ。わ。り。碎。て。竹。女
 を。肩。の。引。を。て。引。立て。地。ぬ。れ。バ。も。人。支。婦。い。ま。も。踏。く。よ。と。て

色をわたりて一色が娘を奪て立廻るを刃で蹴上り
 大に収めしむるが粗人の如く走廻り謝らばきの詞もな
 りりぬ。一色娘を奪人は酒つづ備く危き世を争うる
 一息女の働一人の盗賊を殺傷せり。智恵古の巴とのやうも
 及む。いくる人の末なるをこそ尋らるるもむね候を流儀
 一君の大恩を一人の娘獲生ある心なれば何ぞを包
 ん益回某事して結縁願は仕へ小地の主たるも一々お有りて
 斯民同は落入りたり。先をあること。家持。侍人のあまなく
 貧乏はあらば想て善業は住居をせり。支那酒をいづ一者
 をこの娘のありとも救済をせよめて。花露の中なるは思
 一妙にすして室家もろく一幸の因縁より刀替くとも娘
 と支那の契約をり。暫くは清くして仕友の結を求む。便

をこの娘のありとも思ひていひなれば。一色も流石石家本よ
 わる。行當もなげ事ハ幸に。なよと。まらざるを。か。り。ん。ご。も。
 容貌専美の娘なるは吾が相の極を厭ふ。一。然。れ
 ハ。恩の縁を望て其人の害をなさん。より。を。辞。退。さ。る。る。志
 く。ま。り。と。礼。を。辱。し。て。元。氣。の。顔。情。誠。に。吾。身。よ。お。て。祝
 着。せ。り。侍。吾。身。ハ。浪。の。武士。武者。修。行。よ。世。國。す。妻。を。奪
 一。心。な。り。と。一。息。女。青。年。ゆ。て。容貌。は。潔。け。き。ハ。富。家。友。人
 の。縁。組。と。も。始。終。の。事。行。る。一。と。志。を。や。う。に。云。な。れ。ハ。娘。ハ
 親。を。打。あ。る。ぬ。自。富。家。を。な。す。あ。ず。ま。さ。好。男。は。後。つ。て
 と。を。求。む。只。忠。義。の。武士。の。妻。と。な。らん。と。一。男。の。形。事。り。今
 日。思。ひ。も。君。の。大。恩。よ。より。て。辱。め。を。免。れ。再。父母。の家。よ
 ゆる。悲。義。勇。男。君。よ。と。一。心。の。支。那。一。形。ハ。父母。の。詞。よ。從

母家より其の人の形と志操面を盗て云々々々。其親もたよ
歎てひきまらるゝ物れば。一色其志よめども。姓名をくまら
音々夫婦の約をせり。其の事の大事を思付たり
此堤の先一里餘りして。其の味を島と云。盗賊の強者あ
り。後より荒者五六十人よ。及ると云。定て先別は。其の
親も。盗賊も。彼れも。手つたるべし。然らば。不目よ。捕て。仇
をたれ。早く。敵を運び。上刑へ。居を。捕ら。及ると。色
を。申す。申す。一色。これ。を。聞て。家の。詞の。如。う。と。こ。い
必ず。吾を。仇と。と。と。一。色。親。未。と。彼。れ。が。あ。る。と。立。越。て。對。面。の
上。和。後。を。な。り。一。色。親。未。と。彼。れ。が。あ。る。と。立。越。て。對。面。の
近。之。の。禍。を。免。さ。と。め。んと。早。刀。を。取。て。立。出。れ。ハ。娘。夫。の。制
して。其。隊。が。武。終。一。國。よ。あ。ら。る。と。其。父。眷。属。多。く。れ。ハ。忍。勇。あ

アといふも甚危し。若く思慮をめぐらさば。其の候も亦多うん
と父母たよぬれハ。本所左邊門合点せ。え。其。吾。武。者。修。行
の。乃。が。れ。ハ。武。終。よ。あ。ら。る。と。め。んと。早。刀。を。取。て。立。出。れ。ハ。娘。夫。の。制
て。其。業。を。試。る。は。一。色。を。帶。は。る。の。乃。が。れ。と。門。外。よ。立。出
ハ。早。初。更。よ。ら。る。と。例。の。駿。足。を。以。て。堤。一。里。許。走。り。過。る。よ
盗賊と云々。其の男あ人た右より立出。一色。一。色。の。形。相。よ。騎
て。さ。り。け。さ。く。初。更。を。な。め。て。其。隊。と。云。者。の。あ。ら。い。の
く。と。同。し。由。者。と。も。立。止。り。て。我。が。頭。の。名。を。よ。り。て。其。隊
る。い。づ。の。人。の。よ。ら。る。と。早。初。更。の。河。を。く。ま。ら。ば。一。色
喜。ん。で。我。ハ。上。刑。より。来。る。者。あり。其。隊。を。去。り。さ。る。者。あり
同。司。を。執。事。と。せ。り。其。隊。を。去。り。さ。る。者。あり。其。隊。を。去。り。さ。る。者。あり
一。三。町。さ。り。納。右。の。首。よ。大。ある。一。の家。あり。其。隊。の。宿

たりと委く致して別き因く幸ふること一色ハウは恨みあふ
 但て為行よ果して一の大家み。立入て凡るよ家の内よ
 様々の武器を運いさぬもおありげ行るも様なり。夫
 所は馬ちりとも臆せび履脱きて踏まて警塚無き所のこと
 る人の家の主のう。一色を所たつこと一人者ちを対面
 してたちと大音を叫れば奥の方よりあつてさうくしや
 何者ありとさしてゆるさずる大の男むハ六尺有餘警うち
 乱して眼の光物すづく。三尺計の一刀をさし提て一色が
 面前よと和と成ひ。右師た清門女も猶豫せび警塚へ捧中
 よ押寄りて某ハ旅途の者せ夕駈舎のち門きよして蓋園某
 う娘賊を捕りれ形を足探さく追信て三人の者をお留め
 せゆ来てあつよ。世道の盗賊ハ残さくし。巾邊の換下まで居

色も亦武藝を絶つりとす。およ世所おて召ね来るより
 にくけ者多下よあつとんハ幸なり對面してまよ武藝を
 減んが為よ軟法られども推察せりと我姓名前刻の始末
 一よ述べられ警塚點然として同斥しつ。足下の詞義お
 せ勇ま之傳よ健れ行る雄士なり。前刻の三人ハあるか。と女
 黨の者たり。然もこともえ来世道の業彼等に隔らす。勇士
 よ對して命を奪ひ者一歳よ數十人よ及ぶ。一仇を報せ
 るよおあらんや武藝を試みる我んよ於て祈禱敗のよ大
 よ怒らく務る者よ彼後せん。荒石盗賊の棟梁をて理
 非分なり。一色甚悦てあつらばお忠を合せてたよ業を勵ん
 こ。商人立ち上りて勇撞せ。警塚八角よ筋金つて。一握の
 棒太り八寸廻も有べく。長八尺よして。未平よこきたるを

杖は突て、吾手練の世棒うけて、刀をまきんやといふ。一色若て
 断り及び代、何止の具なりとも、やと但て働く身。我も亦
 従て應せんと云。惣塚野りよ、引て一棒振ると、目色を生
 ト。一色が真向を、引て、お掛ら、一色側よ、あふ、六尺條の青
 目のあふ、石を引起して、引きと、交塚塚が、中の一活石
 よ、齒て、握棒を、申より、引つと、おろ、惣塚獅子の齒を、こを
 引つて、三尺ありの、大刀電の、こら、引引、抜て、切て、おる
 を、一色、抜合て、おれよ、無ド。一上、一ト、透回を、お合て、半時
 よ、條りて、惣塚河を、引けて、おの、戦互よ、息切腕つ、れ、り。一
 こ、休して、立合、お、り、と、さよ、一色、笑て、免も、角も、と、て、引、と
 くれ、彼、大石よ、腰、お、掛て、神を、自、た、り、を、お、あ、り、て、惣塚、立、と
 て、務、負、を、掛、る。一色、立、合、て、惣塚、お、た、刀、を、拂、ひ、の、け、う、ひ

ぐらつて、あり、ぐ、こ、搦、で、引、と、と、投、ま、し、勝、よ、ま、り、を、押、す、え
 て、突、刺、た、刀、打、の、回、よ、お、と、む、る、透、回、志、ば、く、お、れ、と、も、健、れ、
 かる、働、よ、免、て、と、透、を、ま、ら、せ、ん、為、よ、汝、が、衣、袴、よ、も、裏、剣
 十、本、を、打、ち、お、り、故、よ、再、立、合、時、よ、吾、手、練、を、引、て、斯、手、ぬ、よ
 せ、り、此、と、ハ、美、許、何、度、か、り、と、も、務、負、を、引、ひ、べ、と、引、起、し、
 突、放、せ、ハ、惣、塚、野、起、ら、り、吾、衣、袴、を、改、る、よ、先、手、裏、剣、八、九、本
 を、引、お、り、花、志、し、り、て、平、伏、し、君、の、力、量、武、藝、人、力、の、及、ぶ、お
 よ、あ、ら、ん、凡、武、總、ニ、國、よ、於、て、我、よ、備、つ、く、者、賞、さ、す、今、我、よ
 して、自、ら、力、不、足、武、藝、の、い、何、い、周、を、ま、り、得、ら、り、何、年
 服、従、して、武、藝、を、勵、使、申、し、君、を、許、さ、い、下、の、數、十、人、皆
 君、よ、従、ふ、べ、と、精、神、を、引、起、し、和、を、乞、た、所、在、清、門、後、七、條
 ハ、義、を、結、ん、て、た、よ、危、を、助、く、申、し、以、來、同、志、の、人、を、招、す、べ

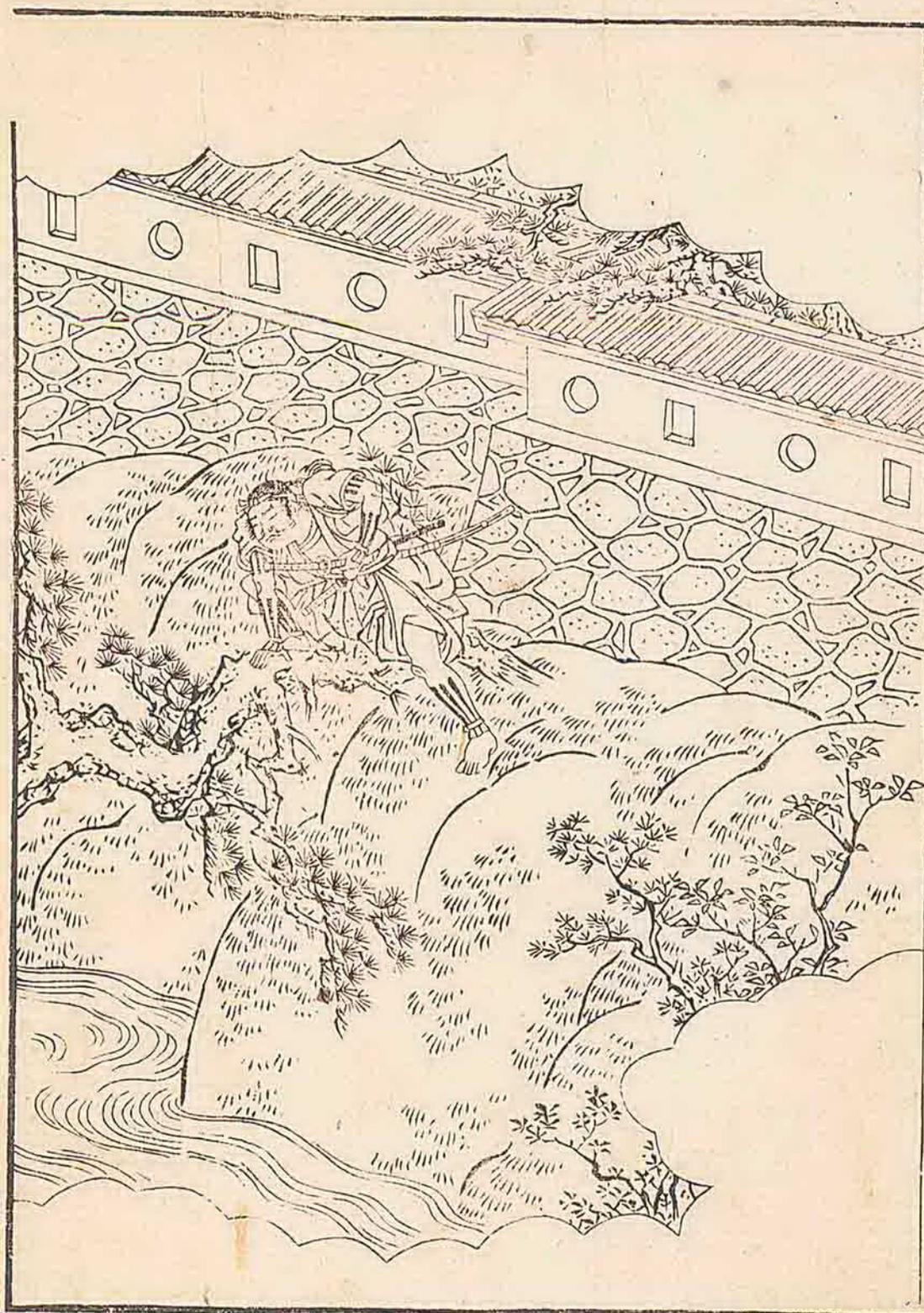
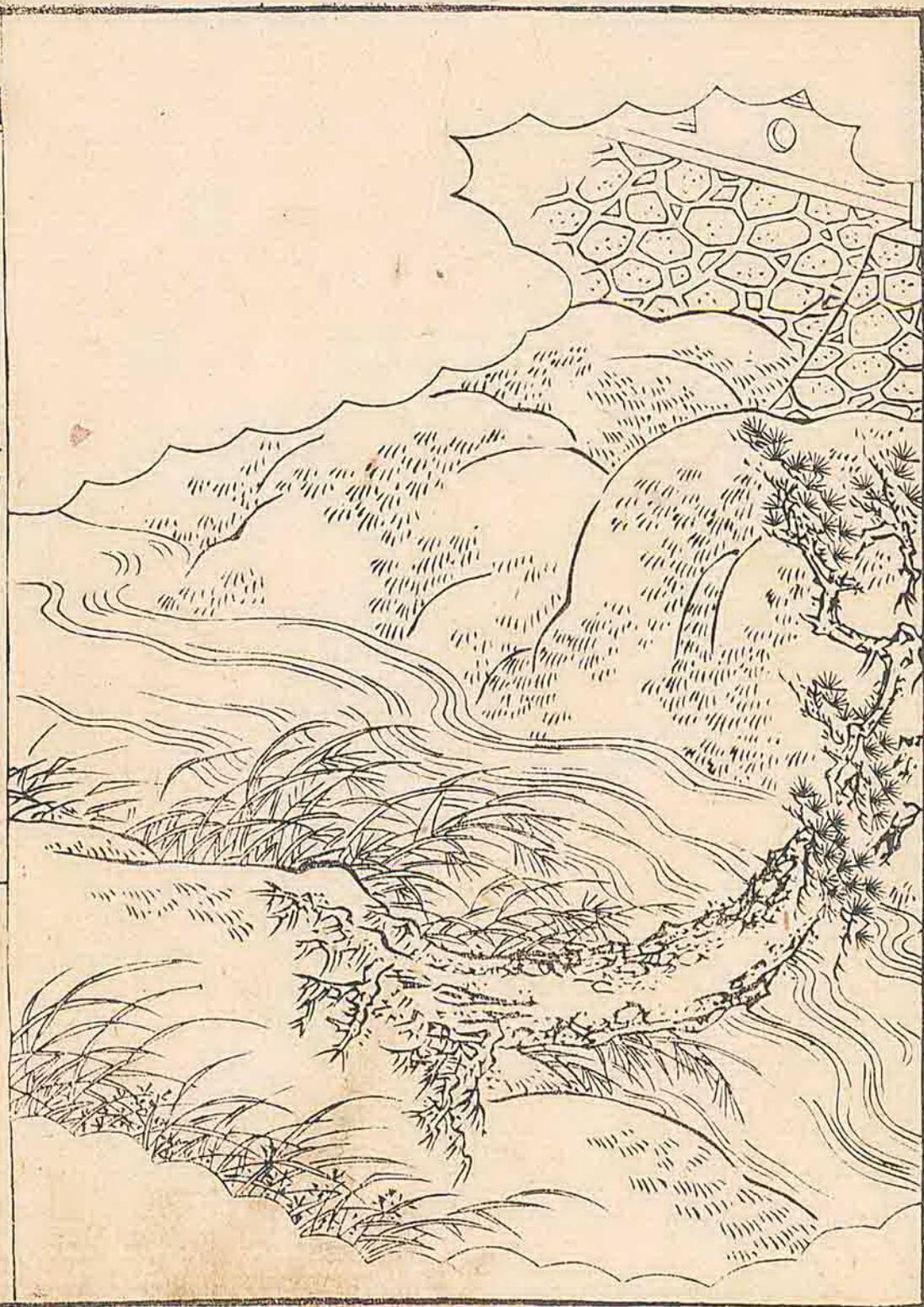
うづべと念願は契約し懐中より符節の竹を渡して是を
 合ふ行札を指人ハ皆我黨の人なりと云ふて既し別れて
 論んとする時多下の盗十数人皆獲物くを切のさげて
 大庭に入来一色を刃て一統は居並て列をけりこれん
 魚ての多配なるべし一色さあらぬ所よそ右の大石をり
 ろくと引下して大勢の前よそあまを以て是を碎く偏よ
 ちられを家内がめし盗大勅轉して愛す地よ雷火出
 警塚送り出で懇懇は謝禮し多下の者どもは始末を修り
 道の守護して松火を仰めんこれ一色あれを止め我
 一時よ走らるり七八里ありも従者續く者なりちか一人行
 んふいとたか後日を期して悠くして立ぬる益田夫婦
 ハ娘のりとも太師丸清つが青尾いふと侍居りりよ三更

よ及て帰来れハ大よ悦喜して始終の物語を聞てまはく其
 武勇を慕ひ遂に其叔婚姻を偲へて軍舅の好を結ぶり

一色時範與城戸持廣結義

附陶山城戸と仕會事

其頃同國忍の城より城戸次郎太郎持廣こ云ふ浪人あり
 繪術の妙を得て近國の郷士皆服従して是を師とけり故
 よ次郎次郎も思ひて名を津南とて大長寺に偶居せり或
 時日暮里の城主富永四郎左衛門の家臣陶山と総とざるめ
 繪術に達し一家中よ師範とて氏康の感状二通を所持
 るせハ高擲して天下我術よはる者ありと思へ軍略の師
 節として或回下総より方より忍の城よ津南の同味下よ
 城戸の繪術を賞するを聞て我女所よ来て世業を以て若



言さ者を對面もならずは、おまらずしてゆらん。成回が存念も
 いかりりこ。下総より、形て彼浪人に業を試んとらん。成回も
 好事の生れられ、物奉初は命とて、波やを師を仰ぐ。此
 時大長寺より下総の郷士赤座基吉傳、元來南朝の者にて、
 餘をゆく。上方まで其業を試み、東國より下つて、郷士を
 かり、那須一族の諸侯の命を指南して、うらうら。近
 來恩の城下より、知音ありて、尋ねり。城戸氏の尊を問て、幸よ
 業を試んと相約して、今日寺の庭まで出合ありと、所の者
 赤座集りて、おれをみる。一色左衛門尉も、意て城戸が勇士
 なるを、同て、たよ義を結ぶの印ありて、此所より、幸に
 して、任留より、あつて、城戸は一面の交をかりて、今日
 の様子を窺ふ。既して、時より、あつて、赤座基吉傳、鎌倉を

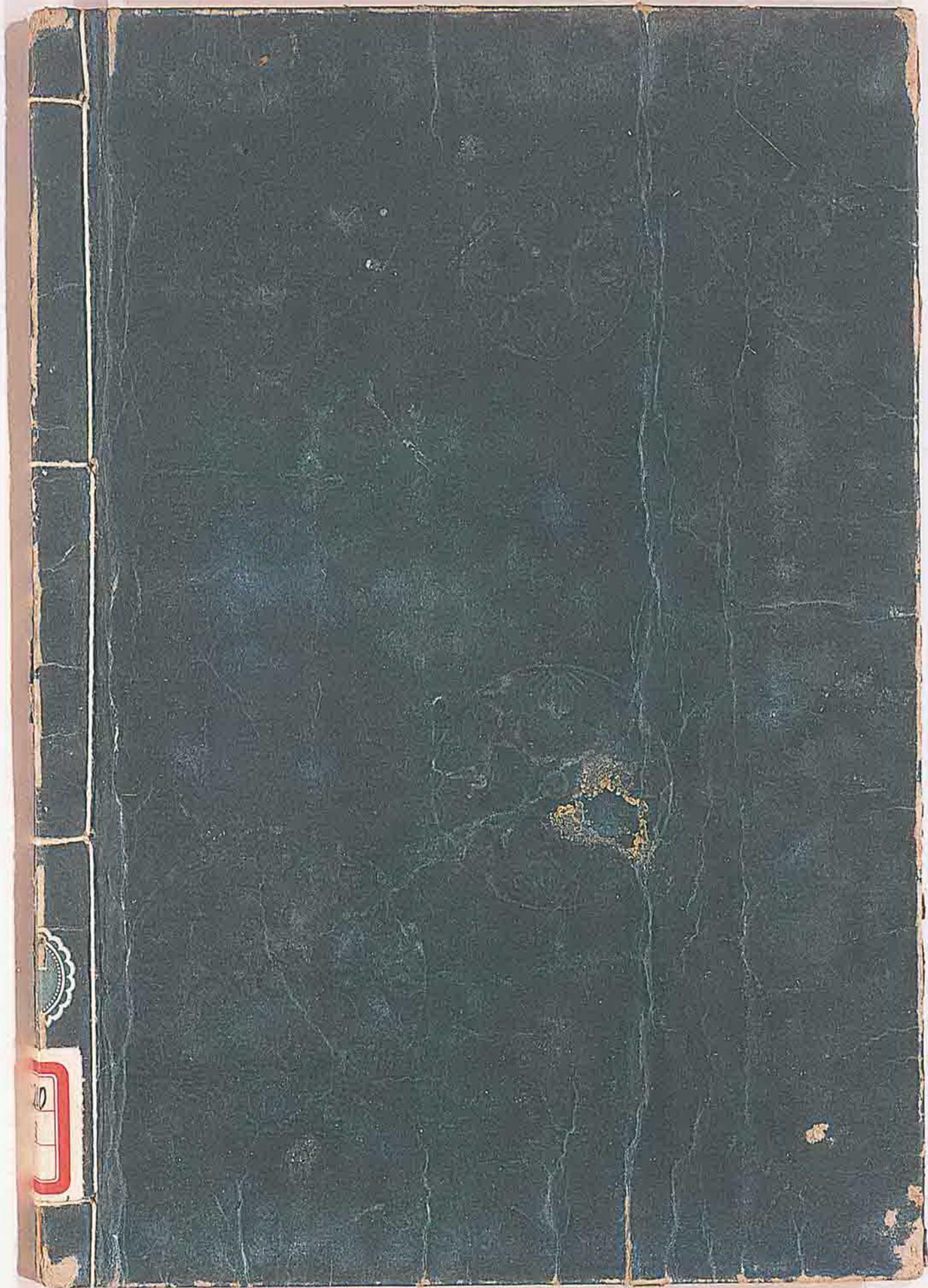
おて、意前より、其神撃く、た人物也。城戸次郎右衛門尉
 を、横へんと、立出る。おま、く、く、白く、眼の肉は、威ありて、誠よ
 一方の大將と、見せぬ。互に、神妙は、色うけて、上陸下船より、取
 合す。此より、お合し、赤座、意より、打負、二度持槍を、地より、あ
 せり。然とも、女も、眼の色を、き、所の業、神通なり。あ、く、吾
 等の、高、歌、あ、く、く、く、く、は、從て、學ん、こ、う、武道の、中、意、なりと、
 頻りに、師弟の、約を、乞、次郎、左衛門、諱、する、と、と、も、篤志の、志、を、
 一、色、密、に、城戸、に、達、て、その、真、存、を、尋、ね、る、よ、え、赤、座、次、郎、持、槍、氏、の、
 下、下、守、女、の、勇、者、と、名、高、き、強、河、守、持、槍、氏、に、一、色、密、に、城、戸、
 次、郎、右、衛、門、尉、と、名、乗、り、て、賞、賜、是、利、家、の、表、座、を、授、け、て、其、氏、族、
 の、賢、思、を、探、し、ん、中、興、の、志、あり、一、色、密、に、己、が、心、後、を、明、く、大

了候て我を結て見承とあり、作符を興へて、行儀来をせらる。
 而も、城主成田より使者も来して、陶山と仕會の命をせり。
 且、次所右即、頼縁なく頼業とて、使者を遣し、密に一色に傳へ、
 回陶山ハ富永家の寵にたり、彼と立合て、吾勝利を得ハ、必
 真奴の猪貞とたり、んぞ、や陶山を突依るとも、成田も、
 富永へのを、同とる吾を頼ん、一旦の國諱、よ富永にハ、大
 丈夫の取、あ、あ、然も、我、我、業を以て、何、何、何、何、
 を承く、何、何、何、何、何、何、一色、一色、思、思、思、思、
 工夫を頼、出、出、出、出、出、出、我、我、改、改、改、改、
 場ハ、極て、調馬の所、所、所、所、所、所、一、一、一、一、
 ハ、昂ら、地、地、地、地、地、地、然、然、然、然、然、然、
 を任、任、任、任、任、任、此、此、此、此、此、此、吾、吾、吾、吾、

細くと、肉、肉、肉、肉、肉、肉、城、城、城、城、城、城、戸、戸、戸、戸、
 場を仕會の場と、さ、さ、さ、さ、さ、さ、馬、馬、馬、馬、馬、馬、
 床机、よう、よう、よう、よう、よう、よう、左、左、左、左、左、左、
 へ、教、教、教、教、教、教、重、重、重、重、重、重、の、の、の、の、
 振て、對、對、對、對、對、對、面、面、面、面、面、面、を、を、を、を、
 而、陶、陶、陶、陶、陶、陶、山、山、山、山、山、山、上、上、上、上、
 て、女、女、女、女、女、女、人、人、人、人、人、人、を、を、を、を、
 の、陰、陰、陰、陰、陰、陰、を、を、を、を、を、を、左、左、左、左、
 を、即、即、即、即、即、即、傍、傍、傍、傍、傍、傍、で、で、で、で、
 我、我、我、我、我、我、等、等、等、等、等、等、を、を、を、を、
 由、由、由、由、由、由、ら、ら、ら、ら、ら、ら、と、と、と、と、
 て、流、流、流、流、流、流、早、早、早、早、早、早、の、の、の、の、

城戸強兵衛が徳光を以て突く掃くを及く。陶山が流るるこ
 まりぐらふと。又條直進で陶山が流るる。一すくく。種
 先を突出せしむること。高直りして退て元の場。一掃く。見
 物の備人々。其業は感ず。しるも。陶山が情りを憐れ。一
 回。口を用ぬ。陶山はい。げ。ま。直り。再び。立。合。ん。と。城
 戸。掃。す。り。ま。及。り。び。ま。る。ま。よ。り。て。陶。山。が。突。強。を。三。度。を。お
 掃。て。又。頭。上。へ。突。出。す。と。再。り。し。て。退。ぬ。り。終。り。を。掃。て
 城。戸。が。強。筋。味。は。九。人。の。お。業。は。何。ら。ず。陶。山。遠。人。と。い。ふ。も
 業。や。あ。り。今。日。の。勝。負。は。れ。を。し。り。て。重。て。ま。る。折。あ。ら。は。
 雌。雄。を。決。す。べ。し。と。既。し。席。を。起。ん。と。す。る。を。陶。山。暫。と。掃。て
 め。武。器。を。向。て。す。ん。て。業。は。主。儀。の。差。別。あり。生死の場。を。て
 勇。も。あ。り。業。の。す。と。ま。ま。を。真。と。い。調。練。を。以。て。常。は。業。筋。を

頭。せ。ご。も。生死の睡。し。て。折。折。業。か。あ。り。を。備。え。た。彼。ハ
 調。練。の。術。を。一。度。の。戦。場。を。あ。り。て。昔。ハ。真。し。し。て。数。度。の
 戦。は。款。の。備。を。破。る。お。れ。真。儀。の。命。り。所。り。形。ハ。馬。上。真。剣
 の。強。合。を。以。て。彼。を。ま。り。突。伏。る。の。術。を。頭。す。ぬ。り。と。徳。光
 無。人。は。述。々。れ。バ。成。田。も。す。折。り。な。ら。び。如何。ハ。城。戸。陶。山。が
 詞。は。從。て。馬。上。の。強。合。を。を。さ。ん。の。め。が。及。り。所。は。あ。り。辭
 て。命。を。合。ふ。せ。し。と。心。仲。は。隱。便。の。め。法。は。約。ん。と。て。中。り。る
 よ。え。来。ま。り。雄。の。持。廣。強。も。辭。退。の。色。が。り。修。行。ハ。え。り
 必。死。の。覚。悟。不。練。ハ。信。得。も。馬。上。の。術。相。手。ハ。業。程。は。か
 合。と。神。色。不。変。守。り。わ。り。今。ハ。成。田。も。是。非。ハ。及。り。
 駿。馬。を。あ。ら。ん。で。た。存。し。引。立。強。も。互。に。攻。め。て。ま。れ。を。中。り
 密。に。物。は。命。し。て。万。一。陶。山。怪。我。あ。ら。は。一。回。ハ。取。回。ん。て



10